

APU

立命館アジア太平洋大学



Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

特集：ご寄付に対するお礼と用途に関するご報告
二つのグローバルプログラム
進路・就職状況



Summer 2006

vol.26

巻 頭 言

駐日サウジアラビア王国特命全権大使

ファイサル ハサントゥラード 様



Faisal Hassan Trad

今般、立命館アジア太平洋大学プログレスレポートへ寄稿させて頂くことを大変喜ばしく思います。又、2000年4月の開学以来、輝かしい研究・教育活動を展開されていることに対して心より敬意を表します。

世界70カ国・地域以上から国際学生を招き、まさに真の多文化そして国際的な教育プログラムを展開されておられる現況と、その先将来にもたらされる成果について大変期待しております。豊かな教育環境が整えられ、社会的にも広く協働・連携が進められている貴学において、在学生達はきっとその学生生活を通じて飛躍的に成長することでしょう。世界各地で生じる諸問題に立ち向かう際に求められる見識、柔軟性、忍耐、そして人格形成を作り上げて行く為には貴学は最適な環境であると思慮しています。広く世界平和と相互理解を促進させているご関係者に心からの敬意を表します。

熱心な教職員の方々によって、確固たる教育プログラムを提供される一方、第一級の講演者をキャンパスへお招きしたり、インターンシッププログラムや交換留学プログラムを実施されながら、絶え間ない自己改革を継続されておられることと思います。貴学が今後も世界の英知と良識をキャンパスへ呼び込み、世界でも類い稀な特筆すべき教育・研究拠点としてその地位を確立されることを期待しております。

最後になりましたが、世界各地の発展の為に昼夜を問わず尽力されておられます貴学ご関係者の活躍を心より祈念し、巻頭の言葉とさせていただきます。

富士通株式会社 名誉会長

山本 卓眞 様



YAMAMOTO Takuma

真理の探究

戦後、工学部で学んだ級友達が、60年後の今日なお印象深く記憶するのが、法哲学の故尾高朝雄教授である。「真理の探究は生易しいことではない。諸君は付和雷同、軽挙妄動することなく、広く学び、深く考えよ」。戦後、価値観の転倒による思想混乱期にあってもこの教えは級友達の中に生き続けたようである。過去数十年多くの知識人が呪縛されてきたマルキシズムも破綻した。占領期に押し付けられ一部の人が金科玉条とした、所謂平和憲法も其の空想性・虚構性を露呈している。教育基本法また然り。しかしこの二つは当初から其の虚構性ないし欠陥が為政者に自覚されていた為、国の大事には到らなかった。

1997年アジア経済危機に当り欧米のマスコミと評論家は、アジアの繁栄は「偽物」として、近親者資本主義、腐敗・汚職、開発独裁の三点を鋭く指摘した。しかしこの三点は20年前アジア発展の初期から存在したのであり、また僅か3年後の経済回復時にも無くなった訳ではなかった。三点は勿論好ましいことではないが、彼らの評論は事態の説明になっていない。本質は「資本主義の業」とも言うべき外資の投機行動にあった。90年代後半、アメリカのIT化は突出的に進み、在庫を圧縮し景気循環を克服し、「ニューエコノミーに進化」と報じられた。しかしやがて皮肉にも「ITバブル」が発生、崩壊して日本企業も被害を受けた。今や「ニューエコノミー」を口にする人は無い。

著名人の発言も要注意である。外務省の高官であった元大使は、「世界の歴史は戦勝国によって書かれている。敗戦国には不公平に思えてもそれを受け入れるしかない」と語っている。一方、哲学者市井三郎によれば「歴史の進歩とは不条理の極小化」であり、元大使の発言は、進歩の断念、覇権への無条件屈服、正義の否定にすらなりかねない。

学生、教師、知的活動を志す者は、真理探究の戦いを続ける覚悟をせねばならない。

特集 1

ご寄付に対するお礼と使途に

立命館 理事長 川本 八郎

立命館 総長 長田 豊臣

立命館アジア太平洋大学 学長 モンテ カセム



7年目を迎えた立命館アジア太平洋大学 (APU)

立命館アジア太平洋大学(Ritsumeikan Asia Pacific University)は、2000年4月、大分県・別府市、それに産業界をはじめ各界の方々からのご支援を得て創設され、お蔭をもちまして本年4月、7年目の春を迎えることができました。本学は「アジア太平洋地域の平和的・持続的発展と、人間と資源、多様な文化の共存共栄を通じて、地球的規模での自由と平和とヒューマンイズムの実現」「これに積極的に貢献しうる国際的人材の要請」を目的として、学生の半数が国際学生という本格的な国際大学として設立されました。

現在、世界経済はアジアを軸に大きく発展する時代を迎えています。我が国の貿易においても最大の交流地域はアジアであり、アジア各国は急速な経済発展を遂げつつあります。同時に残念なことではありますが、自然破壊をはじめ公害問題など早急に解決しなければならない諸課題も顕著になってきています。こうした時代、立命館アジア太平洋大学の創設は時宜にかなった事業であったといえます。

時代は高い水準の国際的人材の育成を強く求めています。ご高承のようにAPUは国際舞台で通用する人材を育てるため、画期的な教育システムとカリキュラムを導入するとともに、学生も教員も半数が外国籍という多文化環境のもとで日英二言語教育に取り組んでいます。そうした斬新な取り組みを通して、問題意識が高く、チャレンジ精神に溢れる個性豊かな学生を育てまいりました。

しかしながら、国家間に大きな経済的格差が存在する中で、多くの国々から学生が集うキャンパスを創造するには、多額の奨学金資金を必要とするなど、極めて高いハードルがあります。本来であれば国家的事業として取り組むべき事業ともいえますが、私立大学である立命館アジア太平洋大学は、数々の難局を乗り越えさせていただき第7期目の新入生を迎えるとともに第3期生を社会に送り出すことが出来ました。

それを成しえた最大の要因は、多数のアドバイザー・コミッティの方々のご支援と、深いご理解を賜っております企業様からのご寄付によるものであったといえます。改めてご支援をいただきました企業様をはじめ、関係各位に厚く御礼を申し上げます。

留学生の受入状況

国際大学という理念から、入学定員の半数となる400人の国際学生を毎年迎え入れることを目標に据え、世界50の国・地域から迎えることとしました。我が国に学ぶ留学生は旧文部省が目標としていた10万人を超えたというものの、国・地域の割合から見ると80%を超える留学生が中国・韓国・台湾の3カ国で占められており、国の広がりという点ではアジアの時代というには不十分な状況です。

関するご報告

本学では「世界の多文化交流空間としてのキャンパスこそが国際的人材養成の必須の環境条件である」との考えから、国と地域の広がり重視しています。現在の立命館アジア太平洋大学には世界74の国・地域から1917人の国際学生が学んでいます。国別国際学生数の状況は、第1位が韓国(534人)、第2位は中国(335人)、第3位はタイ(146人)、第4位は台湾の121人、そして第5位にインドネシアとベトナムが同数で113人、第7位にモンゴルの98人となっています。またアフリカからは69人、旧東欧諸国からも35人が学んでおり、まさにキャンパスは多文化交流空間となっています。(詳細は18ページ「立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数」をご参照下さい。)

APUでは着実に学生たちが育っています。70を超える国・地域の学生が集うキャンパスで、異なる文化や生活習慣の違いを知るとともに、互いの友情を深めています。国内学生も例外ではなく、日本に居ながらにして世界の多様な文化に触れ、驚きの毎日を過ごしています。そうした異文化に接する日常生活は、学生たちが世界中の人々とコミュニケーションする力を身につける絶好の機会となっています。また国際学生たちの勉学する姿勢には真摯なものがあふれ、日本語の習得は勿論のこと専門分野の勉強においても熱心に学んでいます。こうした国際学生の存在は国内学生への大きな刺激となり、また成長の糧となる最良のライバルとなっています。



留学生奨学金に対するご寄付の執行状況について

2005年度には企業様より2億3154万円の国際学生奨学金のご寄付を頂きました。昨年度までに頂戴した寄付金の総額、26億4637万円とあわせ、これまでの収納総額は28億7791万円になります。

本学ではこのご寄付にもとづく奨学金の制度として「授業料全額+100万円を支給する」特別奨学生と、「授業料全額を支給する」Ⅰ種、そして「授業料の65%を支給する」Ⅱ種の三種類の奨学金を設けています。執行状況ですが、2005年度は1124名に対し約6億5642万円を執行し、2005年度までに執行した総額は29億8138万円となります。

結果として2005年度末段階で1億347万円が不足し、この不足額につきましては本学の負担で対応いたしました。2006年度以降につきましては大変厳しい状況になっています。本学といたしましては資金確保に最大限の努力を傾注するとともに、ご支援を賜っております企業各位に引き続きご支援をお願い致したいと存じております。

■表1 2005年度 採用人数・給付額

	特別 奨学生	奨学生 Ⅰ種	奨学生 Ⅱ種	奨学生 合計人数	支給額合計 (円)	国際学生 在籍生数	奨学生 比率
2005年度	12	622	490	1124	656,421,300	1660	68%

また、以上の奨学金とは別に、寄付金にもとづく奨学金を受給していない学生を対象として学費の30%を支給する「奨学生Ⅲ種」を設け、国からの補助金と本学の負担で国際学生を支援しています。さらには大学院学生を対象に、授業料の100%、70%、50%、20%を支給する奨学金制度も設けて本学の負担で国際学生を支援しています。

■表2 過年度の採用人数・支給額合計

	特別 奨学生	奨学生 Ⅰ種	奨学生 Ⅱ種	奨学生 合計人数	支給額 合計 (円)	国際学生 在籍生数	奨学生 比率
2000年度	38	147	92	277	130,379,550	418	66%
2001年度	57	347	200	604	340,145,575	901	67%
2002年度	61	493	312	866	513,737,000	1257	69%
2003年度	7	661	419	1087	636,562,175	1553	70%
2004年度	30	616	467	1113	704,142,600	1608	68%

国際学生の就職内定状況について

奨学金のご支援を賜っております企業各位をはじめ、多くの方々の励ましとご理解を得て、APUにおける卒業生の就職状況は極めて順調に進捗させていただいています。大学の将来に大きな影響を及ぼす第1期生の内定率(就職希望者の内定率)は、お蔭を持ちまして国際学生も含めて100%という実績を残すことができ、翌年の卒業生は99.2%、そして2005年度の卒業生は99.0%となっています。2005年度卒業生の就職状況の詳細は以下の通りです。

■表3 2005年度就職決定状況

		男子	女子	計
全体	就職希望者数	225	281	506
	就職内定者数	222	279	501
	就職率	98.7%	99.3%	99.0%
国内学生	就職希望者数	146	186	332
	就職内定者数	144	185	329
	就職率	98.6%	99.5%	99.1%
国際学生	就職希望者数	79	95	174
	就職内定者数	78	94	172
	就職率	98.7%	98.9%	98.9%

■表4 上場・非上場別決定状況

内定者数	東証一部	その他上場	非上場
501名	141	54	306
内定率	28.1%	10.8%	61.1%
上場企業内定率	38.9%		

就職内定状況を企業別で見ますと上場企業への就職率が38.9%となっています。非上場企業においても九州旅客鉄道や富士ゼロックス、アデコなどの大企業にもご採用いただき、全体としては大手企業中心の決定状況になっていますが、海外展開に熱心な中堅・中小企業のご採用も顕著です。また、多くの企業に複数の採用をいただき、中には10名を超える採用をいただいた企業もありました。

今後のAPU

APUでは2006年度より、アジア太平洋地域の人材育成ニーズへの対応をいっそう強化すべく、ニュー・チャレンジ事業を開始いたしました。ニュー・チャレンジ事業の概要は以下の通りです。

(1) 社会的ニーズに対応した新しい教育研究分野を拡充する。

既存のアジア太平洋学部、アジア太平洋マネジメント学部を横断する学際的な5つの新たな教学分野をインスティテュートとして開設しました。「ツーリズム&ホスピタリティ」「健康・環境・生命」「国際戦略」「Information and Communications Technology (ICT)」「言語」の各分野です。これらのインスティテュートが「Crossover Advanced Programs (CAP)」を学生に提供します。いずれもアジア太平洋地域の人材育成ニーズの高い分野です。APUでも理工系の教学プログラムを立ち上げ、アジア太平洋地域のニーズに多面的に応えることになります。

(2) 学生定員の拡大

インスティテュートとCAPの設置にともない、学則定員を拡充しました。アジア太平洋学部、アジア太平洋マネジメント学部の入学定員を各445名からそれぞれ650名、600名に拡充し、入学定員は1.4倍化しました。国際学生の受け入れも単年度400名から650名に拡大、これによりAPUの学生数はニュー・チャレンジの完成年度には4000名から6000名に拡大します。APUで学んだ学生が多く世界に旅立つことになります。

(3) 言語教育の充実

日本語基準学生の英語教育では2年生終了時点でTOEFL 500点レベルまで引き上げます。英語開講科目を最低20単位以上習得することを要卒条件に課し、受講資格はTOEFL 500点以上の者とするに取り組みました。2005年秋には、アジア太平洋地域の英語教育関係者による「国際英語教育シンポジウム」を開催、元国連事務次長の明石康氏を基調講演者として招きました。

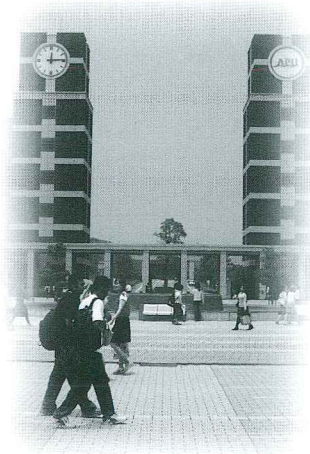
(4) 大学院の充実

大学院では国際的な高度職業人育成ニーズに応え、国費留学生、JICA-JDS学生を多数受け入れており、これらの学生が全大学院生の30%を占めるに至っています。大学院教育における国際貢献といえる取り組みを進めています。

(5) 世界観光学生サミットなど、世界的レベルの情報発信の推進

昨年秋、大分県、別府市の協力でAPUの学生が中心となって世界観光学生サミットを成功させました。この取り組みには世界21ヵ国・地域の78大学より、37ヵ国・地域の学生461名と、小泉純一郎内閣総理大臣(当時)、二階俊博経済産業大臣(当時)、在日大使館大使をはじめとする多くの関係者の出席を得ました。また、経済産業省が進める「平成17年度電源地域サービス産業人材育成事業」にAPUの観光経営人材育成プログラム開発プロジェクトが採択されました。

APUの諸取り組みは国内外の高い評価を得ており、例えば九州においては株式会社電通九州が実施した九州の大学のブランド力調査において、APUは九州大学に次いで2位という評価を頂きました。しかし、APUの創設事業はまだまだ道半ばであり、学園関係者一同は決して現状に満足することなく次のハードルに挑戦し、皆様方のご期待に沿える国際大学の創造に取り組む所存です。今後とも引き続きご支援を頂戴いたしたく何とぞ宜しくお願い申し上げます。



特集 2

二つのグローバルプログラム

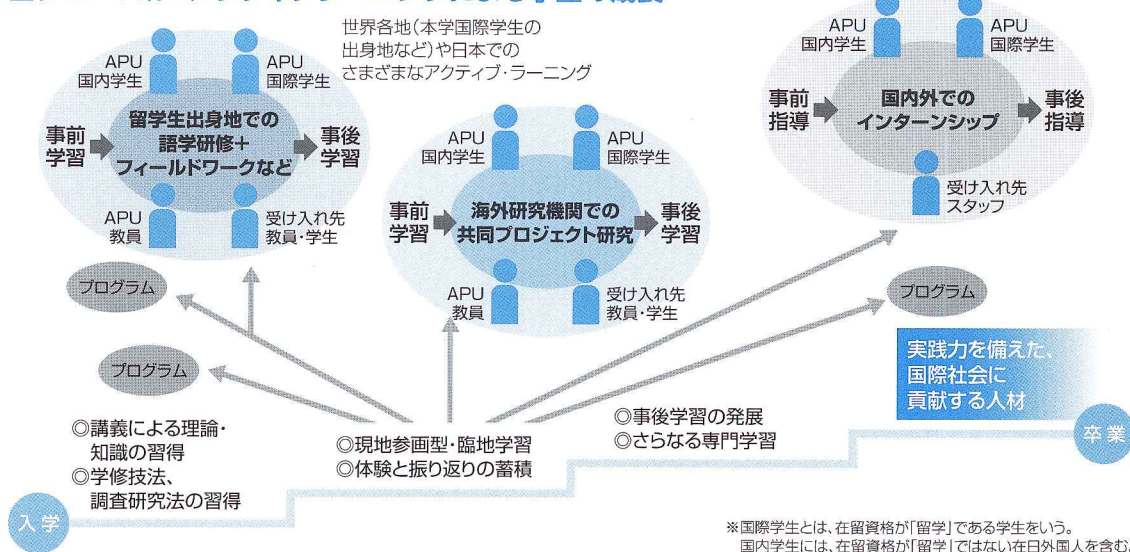
1 実践力を備えた、国際社会に貢献する人材の育成

グローバル・アクティブ・ラーニング(現地参加型学習プログラム)

APUの多文化、多言語環境は世界の縮図そのものです。学生たちはここに身をおくことで、日々国際社会を意識した成長を遂げています。しかし、キャンパスはあくまでも縮図、現実の世界における多文化・多言語環境には利害関係が存在し、摩擦が対立や抗争を引き起こす場合もあります。学生たちは世界をフィールドに学べる多様な海外学習プログラム、グローバル・アクティブ・ラーニングを活用し、交換留学や、ゼミを主とした海外フィールドワーク、海外インターンシップや海外ボランティアなどに積極的に取り組み、時には甘くない現実世界の厳しさを体感しています。

APUでは、学生の全員が在学中に少なくとも一度は、用意されたプログラムの中から自分に最適なものを見つけてチャレンジすべきと考え、ひとりでも多くの学生が留学することを支援しています。

■グローバル・アクティブラーニングによる学生の成長



グローバル・アクティブ・ラーニングの各種プログラム

- 交換留学
- ゼミを主とした海外フィールドワーク
- 短期留学
- 立命館大学への国内留学
- 海外言語研修
- 海外インターンシップ
- 海外ボランティア

■2005年度 インターンシップ実績

国・地域名	総数	国・地域名	総数	国・地域名	総数
アメリカ	1	エジプト	1	バキスタン	2
オーストラリア	2	タイ	36	ブルガリア	2
スリランカ	1	バングラディシュ	1	ベトナム	3
フィリピン	4	ルーマニア	1	香港	1
モンゴル	1	韓国	12	日本	124
ロシア	1	中国	33	合計	257
台湾	17	インドネシア	8		
インド	4	シンガポール	2		

交換留学生の声

APUの国内学生は日英二言語教育を受けつつ、国際学生と日常的に接しているため、海外の大学でも違和感なく専門的な学習をスタートさせます。現地学生と同じ立場で学べるということが、課外活動やボランティア、サークル活動などに積極的に取り組む余裕を学生たちに与えています。



田中 美咲さん
TANAKA Misaki
APM・4回生
滋賀県立 虎姫高校 出身

アジアトップレベルのMBA教育を誇るSMU*で 将来のために先進のマーケティングを専攻

*Singapore Management University

中学生の時、ソウルで数日間のホームステイを経験。その時の異文化体験に刺激を受け、「大学生になったら留学しよう」と心に決めました。それで交換留学制度が充実しているAPUを選択。シンガポール・マネジメント大学 (SMU) への交換留学生となりました。

SMUはアジアトップレベルのビジネス・スクール。広告業界への就職をめざす私はマーケティングを専攻しました。ある授業では「日本企業の人材管理」をテーマにディスカッション。国内には気づかない、新たな視点を得ることができました。



福田 健太さん
FUKUDA Kenta
APM・3回生
大阪府 桃山学院高校 出身

努力が実って目標とする CBS*への交換留学を実現

*Copenhagen Business School

カナダでの語学留学中に、「言語を学ぶだけでなく、それを活かして経営学を学びたい」と思うようになりました。かねてから「外から見たアジア」という価値観を手に入れたかったので、「アジア経済学部」のあるコペンハーゲン商科大学 (CBS) を交換留学先を選びました。

当初は課題の多さ、学生の意識・レベルの高さに圧倒されましたが、努力を重ね、履修した全ての単位を取得することができたと共に目標としていた「新しい価値観に触れる」ことができました。

立命館学園の協定大学・機関(2006年3月15日現在)

*立命館学園は、大学、研究機関、地方自治体および国際機関との世界的な学術ネットワークを展開しています。
特に青字の大学(26ヶ国・59校)とAPUIは、学生交換協定を締結しており、交換留学先として活発な学生交換が行われています。

アジア 【韓国】 亜細亜大学 東亜大学 東西大学 梨花女子大学 漢陽大学 韓国生産技術院 高麗大学 慶熙大学 浦項工科大学 釜山国立大学 ソウル大学 淑明女子大学 成均館大学 蔚山発展研究院 蔚山大学 延世大学 暎園大学 済州大学 【中国】 中国煤炭经济学院 中国企業連合会 香港中文大学 重慶交通学院 重慶工商大学 重慶工学院 重慶科技学院 大連市 東北財経大学 華東師範大学 復旦大学 吉林大学 南京大学 南開大学 北京大学 上海社会科学院 上海交通大学 深圳大学 西南農薬大学 天津大学 同済大学 清華大学 对外経済貿易大学 雲南省社会科学院 浙江省 中山大学 アモイ大学 四川外語学院 北京航空航天大学 北華大学 長春工業大学 長春理工大学 福州大学 ハルビン工業大学 江西師範大学 暨南大学 南昌市 西北師範大学 中国人民大学 上海財經大學 蘇州大学 西南交通大学 西南政法大學 香港大学 通化師範学院 華東理工大学 大連外國語學院 大連理工大学 中国浦東幹部學院 【台湾】 中央研究院 国立政治大学 国立台湾師範大学 南台科技大学 東海大学 【マレーシア】 マレーシア戦略国際問題研究所 マラヤ大学 【シンガポール】 シンガポール国立大学 シンガポール・マネジメント大学 シンガポール理工學院 ナンヤン工科大学 【インドネシア】 アンダラス大学 ガジャマダ大学 バンボン工科大学 西スマトラ州政府 トリサクティ大学 スラバヤ大学 インドネシア大学 プラビジャヤ大学 【タイ】 タイ国立開発行政研究院(NIDA) サイアム大学 タマサート大学 プラハ大学 タイ工業連盟 【フィリピン】 アテネオ・デ・マニラ大学 デラ・サール大学 SEARCA アジア太平洋大学 フィリピン国立大学 【ベトナム】 ハノイ師範大学 ハノイ工科大学 ホーチミン市教育大学 ホーチミン市工科大学 ベトナム教育訓練省 フエ大学 ハノイ国家大学 ホーチミン市国家大学 【モンゴル】 モンゴル工科大学 【インド】 ジャワハル・ネルー大学 デリー大学 マドラス大学 EMPI大学 プネ大学 世界開発ネットワーク 【バングラデシュ】 ダッカ大学 【スリランカ】 コロンボ大学 【ラオス】 ラオス国立大学 【ヨルダン】 ヨルダン大学 【UAE】 HCT

オセアニア 【オーストラリア】 オーストラリア国立大学 ラトロープ大学法律経営学部 マコーリー大学 メルボルン大学 ジェームス・クック大学 チャールズ・スタード大学 【ニュージーランド】 アジア2000年財団 オークランド工科大学 ウィクトリア大学 マッセイ大学 オタゴ・ポリテクニク 【フィジー】 南太平洋大学 【サモア】 サモア大学

北中南米 【アメリカ合衆国】 アメリカン大学 APSIA (Association of Professional Schools of International Affairs) テンプル大学 イリノイ・カレッジ ナショナル・フットボール・リーグ(NFL) レンズラー工科大学 ラトガーズ大学 セント・エドワーズ大学 ジョージア工科大学 ハワイ大学 オクラホマ大学 ビッツバーク大学 南カリフォルニア大学 バンダービルト大学 ワシントン大学 ウィスコンシン大学オッシュコシュ校 ワイオミング大学 ジョージタウン大学 アルフレッド大学 カリフォルニア州立大学フレズノ校 ジョージアカレッジ&ステート大学 オクラホマシティ大学 シモンズ・カレッジ アラバマ大学 【カナダ】 ヨーク大学シュリーヒスクール・オブ・ビジネス サイモン・フレーザー大学 プリディッシュ・コロンビア大学 アルバータ大学 レスブリッジ大学 【メキシコ】 モンテレー工科大学 イベロアメリカナ大学 【エクアドル】 太平洋大学 【コスタリカ】 平和大学 【ペルー】 ペルー学術外交院* ペルー・カトリック大学* 企業経営専攻大学院* リマ大学* ペルー国立農業大学* ペルー国立工学大学* パシフィック大学* ペルー大学カイエタノ・エレディア* 【アルゼンチン】 アルゼンティナ・デ・ラ・エンブレサ大学 ラプラタ大学 ロサリオ大学 トルクアト・ディ・テラ大学 【ジャマイカ】 ノーザン・カリビアン大学

ヨーロッパ 【イギリス】 Centre for Alternative Technology ロンドン大学SOAS エジンバラ大学 サセックス大学 ウォーリック大学 ウェストミンスター大学 ケント大学 ロンドン大学ロイヤル・ロウェイ ウェストミンスター・ビジネススクール ランカスター大学 【ドイツ】 フライブルグ大学 ヴュルツブルグ大学 ベルリン・フンボルト大学 マクテブルク大学 チュービンゲン大学 ザーラント大学 トリア専門大学 ケルン大学 アスコ財団 【デンマーク】 オーフス・スクール・オブ・ビジネス コペンハーゲン商科大学 コペンハーゲン大学 【フランス】 ESCIP エセム(ESCEM) ルアーン・マネジメント・スクール ボルドー政治学院 ボルドー第3大学 Institut Supérieur du Commerce Paris トゥールーズ第一社会科学大学 トゥールーズ・ル・ミラージュ大学 パリ第一大学 【ギリシャ】 アテネ大学 【スペイン】 アルカラ大学 コンボステラ大学 グラナダ大学 【イタリア】 国立ナポリ東洋大学 【オランダ】 ライデン大学 Institute of Social Studies (ISS) 【オーストリア】 スタイア・スクール・オブ・マネジメント ウィーン応用科学大学 【スウェーデン】 ルンド大学 セーデルテルン大学 マルモ大学 ベクショー大学 【ルウエー】 ペルゲン大学 ビー・アイ・ノルウェー・マネジメント大学 【フィンランド】 ローリア応用科学大学 【ポーランド】 ポーランド科学アカデミー社会科学部 ワルシャワ経済大学 【ロシア連邦】 極東国立大学 【ブルガリア】 国立ソフィア総合経済大学 【ベルギー】 ゲント大学 【リトアニア】 ビリニウス大学 【アイルランド】 国立ダブリンシティ大学

アフリカ 【ケニア】 ジョモ・ケニヤッタ農工大学 【南アフリカ共和国】 プレトリア大学

*ペルー・アジア太平洋研究・大学機構

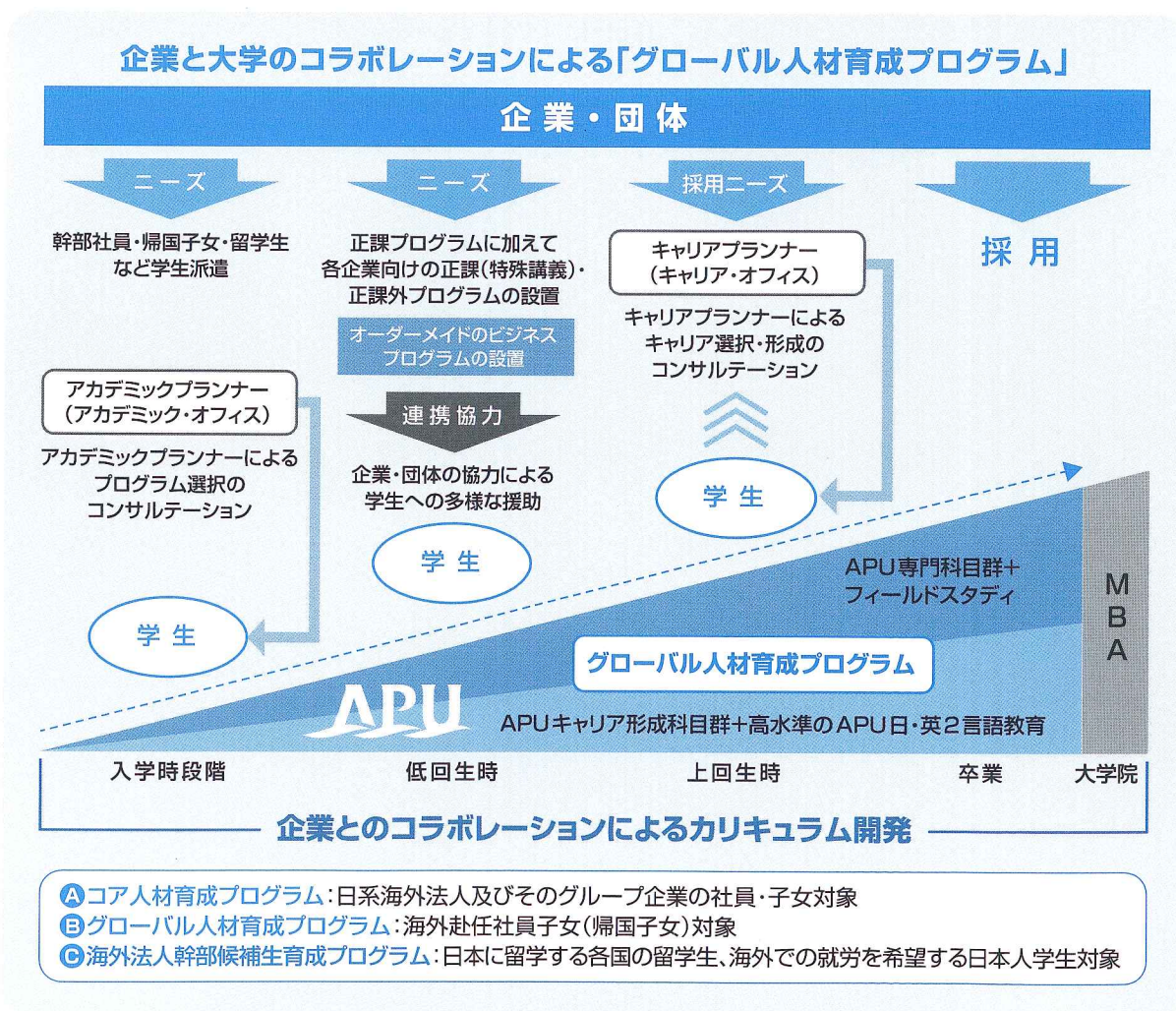
2 大学と企業のコラボレーションによる グローバル人材育成

APUグローバル人材育成プログラム

APUは、日本国内のみならずアジア太平洋地域を中心とした世界の若者を受け入れ、社会的ニーズに即した教育を行い、国内外で活躍できる人材育成・人材輩出を行うことで、グローバル化が進むアジア太平洋の知的ポートの役割を担いたいと考えています。

4年間のトータル育成システムとして、企業との共同開発プログラムとAPUニュー・チャレンジカリキュラムを組み合わせた、企業ニーズに応じたカスタマイズプログラムを構築します。

各企業の目指す人材像の共同分析から始まり、企業の育成目標に応じた個別カリキュラムを構築することで、将来のグローバルビジネスリーダー候補の輩出を目指します。



各企業様との具体的な取組み事例

●富士通株式会社様

これまでに多数の国際学生をご採用いただいています。ICTインスティテュートを中心に正課カリキュラムの中でインターンシップ受入や協力講座の開講などを計画中です。『インフォメーション・テクノロジー』の素養を身につけた『コミュニケーション力豊かな国際人』の育成に積極的に取り組んで参ります。

●アデコ株式会社様

2006年春セメスターより正課講義の中で協力講座として『自己発見力と社会人基礎力を養うセミナー』を開講していただいています。将来の目標として、日本での就職・海外の日系企業での就職を考える学生達に、日本社会の実情を伝え、自らの適性を見極めさせる取り組みを実施し、単なる就職対策講座ではなく、職業意識やエンプロイアビリティを高めることを目的としています。

●住友電装株式会社様

2003年春から2006年3月までに、海外拠点を含め約40名の卒業生（国際学生）を採用していただきました。2006年8月1日には住友電装株式会社と本学との間で「グローバル人材育成包括協定」が締結され、今後、具体的な連携を図っていきます。

●日本軽金属株式会社様

2006年秋セメスターより、大学院MBAコースの半年間の特別プログラムに2名の若手社員様を派遣されます。多様な国々の学生が参加する英語による講義・演習や国際色豊かな学生寮（APハウス）での生活を通じて、今後のグローバル展開に有為な人材の育成を目指しておられます。また、これまでに卒業生をご採用いただき、インターンシップも受け入れていただいています（いずれも国際学生を含む）。

「グローバル人材養成のためのキャリア教育」が現代GPに採択されました。

この度、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に、APUの「グローバル人材養成のためのキャリア教育」が採択されました。現代GPは、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に応じたテーマに対し、応募された取組の中から特に優れた教育プロジェクトを選定し、社会に広く情報提供するとともに財政支援を行うことで、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進することを目的とするものです。

採択された今回の取組では、企業や外部機関と連携して実施する講座やインターンシップなどを通じ、専門教育の内容が実社会でどのように活かされているのかを理解させる工夫を行うことで、キャリア開発科目の設置にとどまらず、専門教育とキャリア開発が結合したキャリア教育を目指します。さらに、学生に対し個別カウンセリング・指導を重視したキャリア教育支援を行います。

APUではすでに、「多言語環境における日英二言語教育システム」が2003（平成15）年度の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択され、2004（平成16）年度には「Student Mobilityの推進」で現代GPに採択されています。



特集3

進路・就職状況

2005年度就職状況報告

立命館アジア太平洋大学の2005年度の就職内定率は99% (国内学生: 99.1%・国際学生: 98.9%) に達しました。「就職に強い大学」として社会から高く評価され、ますます多方面から注目していただいています。また、会社説明会から面接までをキャンパスで行う独自システム「オンキャンパス・リクルーティング」には、266社の日本を代表する企業・団体に来学いただきました。「APUは人材の宝庫」であると自負し、学生一人ひとりに対するきめ細やかなサポート体制を今後一層強化してまいります。

皆さま方には、日頃のご支援に御礼申し上げますとともに、引き続きご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

2005年度 APU学生 主な就職内定企業一覧 (2006年3月31日現在・50音順)

* アサヒビール(株)	(株)山口銀行	* インフォコム(株)
* アデコ(株)	ローム(株)	* (株)インタラクティブメディアミックス
アメリカンファミリー生命保険会社	* ローム(株)台湾	* (株)エイチ・アイ・エス
石川島播磨重工業(株)	* (株)オートバックスセブン	* (株)SRA西日本
(株)INAX	川重冷熱工業(株)	SMBCフレンド証券(株)
* (株)大分銀行	* クラリオン(株)	* (株)エスケイワード
オリックス(株)	(株)ディスコ	(株)エトワール海渡
(株)カネカ	* 服部ヒーティング工業(株)	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
* (株)川島織物セルコン	(株)マルハン	* エフアールエルコリア(株)
* 九州旅客鉄道(株)	(以上、APU アドバイザリーコミティ企業様およびサポーティンググループ企業様)	大分ケーブルテレコム(株)
京都中央信用金庫	あいおい損害保険(株)	大分県警察本部
(株)小松製作所	* 愛三工業(株)	大分合同新聞社
* 三洋電機(株)ドイツ	(株)愛知銀行	大分信用金庫
(株)滋賀銀行	アイフル(株)	大分ゼロックス(株)
住友重機械工業(株)	* (株)アウルズ	大分全日空ホテル オアシスタワー
住友生命保険相互会社	* (株)あさひ	* (株)大川金型設計事務所
* 住友電気工業(株)	ANAセールス(株)	花王(株)
積水ハウス(株)	(株)ANAホテル大阪	* (株)カモガワ
* ソニー(株)	アパグループ	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)
* ダイキン工業(株)	* アビームコンサルティング(株)	北九州エアサービス(株)
大日本印刷(株)	* (株)アメリカンランゲージスクール	キャンノンシステムアンドサポート(株)
(株)TKC	イオン(株)	九州産業交通(株)
東京海上日動火災保険(株)	イオン九州(株)	京セラミタ(株)
* (株)東芝	* イケア・ジャパン(株)	近畿日本ツーリスト(株)
東陶機器(株)	(株)イシ・ホテルズ・グループ	クラブツーリズム(株)
* 東レ(株)	* 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)インドネシア	グランドハイアット東京
* 日産自動車(株)	* 伊藤忠丸紅鉄鋼(株)ベトナム	* グローバル・コマーシャル・リアル・エステート・ジャパン(株)
日本生命保険相互会社 大分支社	* 稲畑産業(株)シンガポール	* (株)ケイグランデ
野村證券(株)	(株)イノアックコーポレーション	* ケンコーコム(株)
東日本旅客鉄道(株)	(株)いまじん	(株)けんと放送 (FM KENTO)
* 富士ゼロックス(株)	* (株)インターソフト	興銀リース(株)
* 富士通(株)	* (株)インタラク	コクヨ(株)
(株)豊和銀行	* (株)インテック	* (株)コトブキ ベトナム
* 三井住友海上火災保険(株)インドネシア	* (株)インテリジェンス	* (株)コメリ
(株)三井住友銀行	* (株)インフィニトラベル インフォメーション	(株)ザ・ウィンザー・ホテルズ インターナショナル

ザ・テラスホテルズ(株)	* 東南貿易(株)	* 別府富士観ホテル
* (株)サトー ベトナム	* (株)東北新社	(株)ホームインブルーメントひろせ
(株)山陰放送	(株)キメック	(株)星野リゾート
(株)サンエー・インターナショナル	(株)豊田自動織機	北海道国際航空(株)AIRDO
* (株)サンフィールド	* (株)トライネット	本田技研工業(株)
G.A.コンサルタンツ(株)	* (株)トラベルヴォイスアンドネット	マースク(株)
* (株)GKT	西鉄旅行(株)	(株)毎日コミュニケーションズ
四季(株)	(株)ニチレイフレッシュ	マブチモーター(株)
シチズン時計(株)	* 日揮プラントエック(株)	丸紅インフォテック(株)
(株)シード	日興コーディアル証券(株)	* (株)ミキモト
JALスカイサービス(株)	* (株)日本触媒	三井住友カード(株)
(株)JALナビア福岡	* 日本インター(株)	三菱UFJ証券(株)
JUKI(株)	日本金銭機械(株)	* 三ツ星ベルト(株)
* (株)ジョイトーク	* (株)日本公文教育研究会	(株)明電舎
杉乃井リゾート(株)	(株)日本経営	矢崎総業(株)
スズキ(株)	日本軽金属(株)	(株)ヤナセ
(株)スターフライヤー	日本興亜損害保険(株)	(株)ヤノメガネ
住商リース(株)	日本ゼオン(株)	* YAMAGATA(株)
* 住友化学(株)	日本赤十字社	* (株)山登ゴム
* 住友ゴム工業(株)	(株)日本セレモニー	* ヤマモリ(株)
* 住友電装(株)	日本電子計算(株)	(株)USEN
* 住友電装(株)インドネシア	* 日本ピストンリング(株)	* (株)ランテック
* 住友電装コンピュータシステム(株)	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	(株)リクルートHRマーケティング
* 住友電装(株)タイ	* (株)日本旅行	(株)リクルートスタッフینگ
* 住友電装(株)中国	(株)ノエビア	* リッチウェイ ジャパン(株)
(株)セブニーイレブン・ジャパン	(株)NOVA	ルートインジャパン(株)
センコー(株)	* パーカー加工(株)	(株)ロイヤルホテル
(株)損害保険ジャパン	* バーレーン大使館	(株)ローソン
第一生命保険相互会社	* (株)バイオス	* ロート製薬(株)
ダイセル化学工業(株)	ハウスステンボス(株)	ロッテスノー(株)
* ダイハツ工業(株)	(株)博多全日空ホテル	YKK AP(株)
* (株)ダイフク	(株)パナ	ワタミ(株)
大和証券SMBC(株)	* 白光(株)	IBM Business Services Inc.
瀧定大阪(株)	* パナソニック コミュニケーションズ ベトナム(有)	* SGS India Pvt Ltd.
(株)地域科学研究所	浜松ホトニクス(株)	* LG Philips LCD Co.,Ltd.
* 中国国際商業銀行	肥銀ビジネス開発(株)	* SAIGON TRADING CORPORATION
(株)チュチュアンナ	(株)ビジネスコンサルタント	* JW Marriott Hotel Seoul
ツインリンクもてぎ	日田佐藤学園 藤蔭高等学校	* Thana Lohakit Co., Ltd.
TDK(株)	日立金属(株)	TAIKO ENTERPRISES CORPORATION
(株)テイクアンドグヴ・ニーズ	(株)日立プラントテクノロジー	* DEC International Inc.
* (株)ディックスクロキ	ヒロセ電機(株)	* COVANSYS (SINGAPORE) PRIVATE LIMITED
(株)デニーズジャパン	* (株)VSN	* 汎太宇国際股份有限公司
東海ゴム工業(株)	福岡ゼロックス(株)	* 学校法人立命館 (APU)
東急観光(株)	(株)ふくや	
* 東京ドローイング(株)	福山通運(株)	
* 東京マリン(株)	富士通テン(株)	

注1: *は国際学生の内定者を含む企業
注2: 複数の内定者を含む企業が多数あります

APU学生採用企業からのメッセージ



異文化を認め合い、協働する能力に優れた APU生への期待は大きい。

日本アイ・ビー・エム株式会社

人事 人事企画 採用担当課長
川崎 慎吾様

今年、APUキャンパスで行った会社説明会には、200名以上の学生が参加してくれました。他大学に比べて質問の数が圧倒的に多く、入社後の仕事についてかなり具体的な質問が出るなど、自分のキャリアについて目的意識をしっかりとった学生が多いという印象を受けました。また、IT分野という成長著しいフィールドに挑戦したいという好奇心旺盛な学生が多いことも特筆すべき点で、新しい世界に飛び込むことへの躊躇ない姿勢に好感をもちました。

当社の採用では理系・文系を問いません。入社後1年弱の基礎研修と職種別研修、さらにはOJTで学びながら、自然に仕事に馴染んでいける環境がIBMにはあります。また、プロフェッショナルを育てるという観点から、継続的に成長ができる各種教育制度も整備され、自信をもってお客さまにソリューション（課題解決）をご提供するための「スペシャリスト認定試験」もあります。APU生の内定者2名（2006年7月現在）は営業職での内定ですが、応募頂いたAPU生の中にはITエンジニア志望の方もいました。エンジニアとして活躍するAPU卒業生が出てくるのも近い将来ではないかと期待しています。

さて、いま我々は、「お客さまのイノベーション・パートナーになる」ことを目指しています。ここでいうイノベーションとは、単に新しい製品やサービスを意味するだけでなく、ビジネスプロセスそのものや社会の変革までも含む幅広いものです。お客さまのニーズに対してコンサルティングを行い、そのビジネスが成功するにはどうすればいいかを一緒に考え、お客さまに最適なソリューションを提案します。もし日本に事例がなくてもIBMの世界170カ国の拠点には、数多くの成功事例やノウハウがあり、海外の仲間と連携しながら、お客さまの問題を解決するべくプロジェクトを進めます。そこで重要視されるのが、コミュニケーション能力とチームワークです。物事を進めるにはお互いの文化や背景を認め合うことが必要で、主張しながらも、相手を理解する優れたバランス感覚が求められます。

APU生と話して感じることは、IBMとAPUの環境が似ているということです。海外留学生を「受け入れる」というスタイルではなく、さまざまな国から学生が「集う」かのように、そこで自然に文化交流が行われ、コミュニティを生み出している環境はIBMにかなり近いと感じます。今後ますますビジネスがグローバル化する中で、お互いの文化を認め合える基本能力がすでに養われていることは、APU生にとって大きなアドバンテージになるでしょう。

いま日本がアジアの各国と手を組んで、社会をより立てていく使命があるとすれば、APUはこの使命を実践できる人材を輩出することが可能なのではないのでしょうか。これからは、日本だけでビジネスが完結するという時代ではありません。他国と協力し、分担して物事を進める場合、相手の文化を認められないことには、組織としても、ビジネスとしてもうまくいきません。グローバル、そしてアジアというコミュニティを理解できる人材が求められる状況は、当社だけでなく日本社会も同様であると思います。

APUが、関係者の皆さまのご尽力で、今後も継続的に優秀なビジネス・パーソンを輩出されることを楽しみにしております。

卒業生の声



手塚 直子さん
(2005年APS卒)

勤務先
滋賀銀行

私は数字や経済が得意ではなかったので、銀行に勤めることに不安がありました。でも、その弱点を克服したいと考え、あえて今の仕事を選んだのです。そして「失敗しても、反省はするけど落ち込まない」と決心し、気持ちの切り替えと学ぶ姿勢を大切にして仕事に取り組んできました。また、この組織の中で「自分の役割は何か」「何をしたら最も機能的か」ということを常に意識し、自分の得意分野を活かしながら戦力になるべく努めました。お陰さまで、早くからいろいろな仕事を任せていただくことができました。

この私の視点や能力はAPUで磨かれたものです。個性あふれるAPU生がイベントなどを実行

する際、議論は白熱するもののなかなか結論が出ません。その中で私は妥協点、協調点をみつけ、みんなを前進させる役割を担うようになっていました。試行錯誤の繰り返しでしたが、自分の意見を主張しても、相手を認めながら議論する力や、提案力が身に付きました。

現在は窓口業務を担当しており、コミュニケーションを通して「お客さまが何を求められているか」を考え、ご提案することにやりがいを感じています。「手塚さんが勧めてくれるからお願いするわ」という言葉を一つでも多く聞きたいと思っています。

Graduate's Voice

卒業生の声



LEE KWAN YUHさん
(2004年APS卒)

勤務先
株式会社カネカ

現在私は、兵庫県高砂工業所の管理グループに所属し、コスト管理など会計に関連する業務についています。各製造部が法律、経理上において正しく会計処理を行えるように導き、日々の業務がスムーズに行われるために様々な提案をするなど、本社と事業場の橋渡しの役割を担っています。

その中で私には簿記の知識と実務経験が求められています。もちろん資格取得も大切ですが、より重要なことは

- ・データから問題を発見し、その背景を読み取る「数字の感性」
- ・日頃から事業所の実情を捉え、トラブルに備えること

の2点であり、日々それを意識し、仕事に取り組ん

でいます。

また、何事にも「Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）」を心掛け、一つの業務が完了しても常に一步先を確認し、自分の仕事がどういう業務と関連しているかを考えるようにしています。

日本企業で働く中で、マレーシアと日本の文化の違いを客観的に捉え、APUで培ったコミュニケーション能力や日本文化の知識を生かして、日本人の考え方を理解するように努めています。今はまだ情報や知識を周りから得ることが多いですが、成長する中で少しずつ発信していきたいと思っています。将来的には国際的な業務に携わり、日本と海外の橋渡しをしていきたいですね。

Graduate's Voice



Report

中央教育審議会でAPUの国際戦略を報告

REPORT ON APU'S INTERNATIONAL STRATEGY AT THE CENTRAL EDUCATION COUNCIL

2006年5月22日、文部科学省の中央教育審議会大学分科会からの要請で、APUの国際戦略について学長が報告を行いました。

学長は、国内外の高等教育機関やオピニオン・リーダーたちがAPUに示す関心や評価の高さを「APUの成功」とみなすならば、その背景にあるものとして、①二言語による教育というユニークな方針、②授業以外の学習時間の長さに見られる「学生がよく勉強する大学」づくり、③進路・就職状況に見られる卒業生の国際通用性、④奨学金の充実、を挙げて説明。さらにこの6年間の成果の上に、APUの使命である「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋地域の未来創造」を今日的課題をふまえて具体化したものが「ニュー・チャレンジ計画」である、として、今春から始めた、文理総合型の教育プログラムをふくむ5つのインス

ティテュートによるユニークな教育計画を紹介しました。

中教審の委員からは、日本の高等教育全体が国際化するためにはどのようにすればよいと考えるか、国際大学たるAPUの成功を受けて立命館大学はどのように変わったか、など、わが国の大学の国際化の現状に対する質問、APUがめざす学生像、国際学生・国内学生の共同の状況、奨学金財源に関する方針など、APUに関する質問が寄せられました。

わが国の高等教育政策に大きな影響を与える中教審大学分科会ですが、このような場において、APUは重要な関心の対象として位置づけられているといえます。

Report

ロナルド・P. ドア氏の特別講義を開催

SPECIAL LECTURE BY ACADEMIC ADVISOR DR. RONALD DORE

2006年5月17日、APUアカデミック・アドバイザーであるロンドン大学名誉教授 ロナルド・P. ドア氏を迎え、特別講義とセミナーが開催されました。



ドア氏は半世紀にわたって日本社会や企業を研究し、日本的経営を世界に初めて紹介した日本研

究の第一人者です。

講義では「古代アジアと将来のアジア」をテーマに、中国史である『三国志』が現代の日本でもコンピュータゲームとして親しまれていることを例にあげ、「日本、韓国、中国など隣国の人々は共通の伝統や文化を保有しています。古代アジアの文化と現代アジアの文化や財産は繋がっていることを認識し、アジア諸国は将来に向けて互いの関係を構築すべきです」と、流ちょうな日本語で参加者に語りかけました。

続くセミナーでは、「企業は誰のものにするべきか」についての講演が英語で行われました。

Report

NHKテレビ「経済羅針盤」に川本理事長が出演

APU FEATURED ON NHK'S ECONOMIC COMPASS

2006年4月23日、NHK総合テレビ「経済羅針盤」において、大学では初めて立命館が取り上げられ、川本八郎学校法人立命館理事長が出演しました。「経済羅針盤」は、毎週各界で話題のリーダーを招いて、会社・組織の取り組みやトップの素顔に迫る経済番

組です。

番組では、立命館のこれまでの改革の歩みをたどりながら、APUや産学官連携の取り組み、大学行政研究・研修センターなどを取り上げ、改革の実践と成果を紹介し、今後の展望を伝えました。

Report

スチューデントモビリティ 2006を開催

NEW CHALLENGES FOR STUDENT MOBILITY 2006

2006年3月12日から13日、APUは「New Challenges for Student Mobility 2006—教育の新しい枠組みを模索して」と題した国際会議を開催。本学関係者のほか、国際交流分野に関わりのある専門家や国内外の大学教員、教育に関心をもつ学生や他



大学の教職員などが参加しました。

会議では、学生の流動化を進め、効果的な国際交流プログラムを開発し、4年間の学習に組み込むにはど

うすれば良いかについて議論しました。会議中、国際教育者協会（NAFSA）事務局長のMarlene Johnson氏は「この会議で共有された知的活力、専門知識に刺激を受けました。学部教育高度



化の今後の可能性・展望に期待しています。APUの「アクティブ・ラーニング」が例外的なプログラムでなく、全学生にとっての標準的なプログラムであるという共通認識を全員がもつことを望みます」と述べました。

これを受けてカセム学長は、全会議参加者に向けてAPUの目標・ビジョンを共有していただけるようにメッセージを送りました。

Report

新校舎建設の起工式を実施—ニュー・チャレンジ計画

GROUND BREAKING CEREMONY HELD AT APU

2006年4月19日、新校舎建設の起工式を執り行いました。新校舎建設は、教育改革「ニュー・チャレンジ計画」に基づく学生・教員数の増加に対応するもので、教室棟、研究棟、学生関連施設棟、学生寮のAPハウス3が来年4月開設を目指して新築されます。

起工式には石川公一大阪府副知事、大塚利男別府市助役を来賓に迎えて、川本八郎立命館理事長、長田豊臣立命館総長、モンテカセムAPU学長をはじめとする立命館学園関係者や施工業関係者等およそ90名が参加し、工事の無事を祈願しました。

神事後の直会（なほらい）では、川本理事長が「APUの教育・研

究力を高め、ますます安定的・長期的な基盤を確立するために今日の出発があり、地域に根ざす真の国際大学を目指すべく、皆さまと努力していくことを誓います」と挨拶しました。



Report

経済財政諮問会議でAPUが紹介

APU RAISED AT COUNCIL ON ECONOMIC AND FISCAL POLICY

2006年3月16日に開催された経済財政諮問会議（平成18年第6回）で「人財立国」に向けた具体的な取り組み事例としてAPUが紹介されました。

経済財政諮問会議とは、経済財政政策に関して内閣総理大臣のリーダーシップを存分に発揮することを目的に、2001年1月から

内閣府に設置された合議制機関です。

APUは、アジアの優秀な人材の日本での留学・研究を拡大させるとともに、日本の若者のアジア派遣を促進し、若者の交流を進めるという「アジアの人材交流」の取り組みの中で取り上げられました。

Report

APUが「大学ブランド力2位」にランキング

APU RANKS 2ND IN UNIVERSITY BRAND POWER SURVEY

株式会社電通九州が2006年2月9日に発表した「大学ブランドパワー診断調査」で、APUが2位に選ばれました。この調査は同社が一般市民から見た大学像を分析する目的で2005年12月に実施したもので、診断の対象は九州の17大学。九州在住の15～59歳の男女1250人がアンケートに答えました。

評価軸は、教育・育给力、次代開発力、国際連携力、就職力、情報・文化発信力の5つに分かれており、APUは「次代開発力」、「情報・文化発信力」や「国際連携力」の項目で高い評価を得ました。

APUは今後も地域社会、教育機関の期待に応えられる大学づくりを目指していきます。

Report

北側一雄国土交通大臣がAPUを訪問

JAPANESE GOVERNMENT MINISTER OF LAND, INFRASTRUCTURE AND TRANSPORT VISITS APU

2005年12月17日、北側一雄国土交通大臣（当時）がAPUを訪問しました。カセム学長らAPUの役職者と懇談されたのち、APUの学部と大学院で観光を専攻する国際学生たちと、APUで

の勉強や日本の生活などについて、和やかに話されました。



Report

中津市と友好交流協定を締結

FRIENDSHIP AND EXCHANGE AGREEMENT FORMALIZED WITH NAKATSU CITY

2006年1月16日、中津市とAPUは友好交流に関する協定を結びました。大分県庁で調印式が行われ、広瀬勝貞大分県知事と梶谷潔中津市議会議長の立会いのもと、新貝正勝中津市長、カセム学長が協定書へサインをしました。

カセム学長は「APUは地域に支えられた大学。県北地域に友情が広がるのは大変ありがたい」と挨拶し、新貝市長は「APUの人

材や知的資源を活用して連携を深め、中津市を活性化していきたい」と述べられました。

APUは現在、大分県内外の中津市を含む8つの自治体と交流協定を締結しており、地域振興や教育分野における交流を行っています。

Report

内閣府・都市再生本部で先進事例として紹介

MODEL PROJECTS INTRODUCED AT THE JAPANESE CABINET OFFICE / URBAN RENAISSANCE HEADQUARTERS

2005年12月、内閣府・都市再生本部の都市プロジェクト（第10次決定案）として「大学と地域の連携協働による都市再生の推進」が立ち上がりました。このプロジェクトは「21世紀の新しい都市創造」を目指す国家的プロジェクトであり、①大学と地域との連携の強化によるまちづくりの取り組みの推進、②実践的な社会人教育の推進や社会活動への参加促進、③留学生・外国人研究者のための環境整備や市民とのふれあい・交流促進、④市民に開かれた大学、連続した緑地の確保などまちづくりと調和した大学キャン

パスの形成、⑤まちづくりへの取り組みに当たっての大学と地域との連携を促進するための体制整備、の5項目が掲げられています。

その中でAPUは全国における先進的な事例の一つとして紹介され、学生の企画運営による市民交流イベントや、国際色豊かなまちづくりの取組み、ホストファミリーとの交流などが挙げられています。

立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数

2006年5月1日付

国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計
アジア			
韓国	533	1	534
中国	301	34	335
タイ	142	4	146
台湾	112	9	121
インドネシア	105	8	113
ベトナム	92	21	113
モンゴル	94	4	98
スリランカ	51	2	53
インド	34	6	40
マレーシア	17	17	34
ミャンマー	18	8	26
ネパール	23	1	24
バングラデシュ	14	5	19
フィリピン	8	3	11
パキスタン	10	0	10
ラオス	3	6	9
カンボジア	3	2	5
シンガポール	2	3	5
小 計	1,562	134	1,696
中東			
バーレーン	1	0	1
イラン	0	1	1
* オマーン	1	0	1
シリア	1	0	1
トルコ	0	1	1
小 計	3	2	5
アフリカ			
ケニア	19	2	21
ナイジェリア	9	3	12
ガーナ	10	0	10
ウガンダ	6	2	8
マリ	3	1	4
カメルーン	3	0	3
コートジボアール	2	0	2
エチオピア	2	0	2
ザンビア	1	1	2
ベナン	0	1	1
コモロ	1	0	1
エジプト	1	0	1
南アフリカ	0	1	1
タンザニア	0	1	1
小 計	57	12	69

国・地域	学部	大学院	学部・大学院合計
北・南アメリカ			
アメリカ合衆国	26	8	34
カナダ	8	4	12
メキシコ	1	2	3
コスタリカ	1	1	2
アルゼンチン	1	0	1
ボリビア	1	0	1
ブラジル	1	0	1
エクアドル	1	0	1
ジャマイカ	0	1	1
ペルー	0	1	1
トリニダードトバゴ	0	1	1
* ベネズエラ	0	1	1
小 計	40	19	59
オセアニア			
オーストラリア	7	2	9
パプアニューギニア	2	3	5
トンガ	1	2	3
サモア	0	3	3
ニュージーランド	2	0	2
小 計	12	10	22
ヨーロッパ			
ウズベキスタン	11	0	11
ブルガリア	7	2	9
リトアニア	8	0	8
エストニア	7	0	7
ハンガリー	3	1	4
スウェーデン	3	1	4
ドイツ	3	0	3
ルーマニア	3	0	3
フィンランド	2	0	2
スロバキア	0	2	2
スペイン	2	0	2
スイス	2	0	2
ウクライナ	2	0	2
イタリア	1	0	1
* キルギス	1	0	1
ラトビア	1	0	1
ノルウェー	1	0	1
ポーランド	1	0	1
ロシア連邦	0	1	1
イギリス	1	0	1
小 計	59	7	66

国際学生(留学生)合計	1,733	184	1,917
国内学生合計	2,816	19	2,835
APU 学生総計	4,549	203	4,752

注) 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。
*印は、新たに迎えた国際学生の出身国



